



## 山梨県障害者差別解消支援ネットワーク会議

事務局：山梨県障害福祉課  
〒400-8501  
山梨県甲府市丸の内1-6-1  
Tel 055-223-1460 Fax 055-223-1464  
E-mail  
shogai-fks@pref.yamanashi.lg.jp

### 【トピック】

- 県政出張講座や県自立支援協議会座談会で障害当事者、保護者、支援者の方々から出された意見や要望事項を紹介します。

平成28年度開催の県障害福祉課による県政出張講座や県自立支援協議会権利擁護部会の座談会で、障害当事者、保護者や支援者などから出されている意見や要望事項を紹介します。

障害当事者からの意見や要望を踏まえた事前の環境整備への意識が求められています。建設的対

話から合意形成へ至る過程で必要なことは何か、お互いのことをよく知ろうという積極的な取組もその一つではないでしょうか。

なお、掲載した意見や要望は、開催ごとの記録をもとに、久保推進員がまとめました。

### 寄せられた意見や要望

#### 県政出張講座及び県自立支援協議会権利擁護部会の座談会

##### ◆身体障害者

- ・共生社会を実現するためには、障害や障害者に対する県民の理解を深めることが重要
- ・障害者自身も積極的に社会に出て行くことが必要
- ・障害者が自立するためには、障害者の就労についてもっと積極的な取組が必要。移動に関する問題が大きい。公共交通機関利用の際の障害者への理解や協力は重要
- ・バリアフリーの県営住宅に住んでいるが、駐車場が一般と同じで車からの乗り降りが不便。最近は、両側に車が止まるようになり、更に乗り降りしにくくなった。
- ・駐車場の自動精算機に手が届かず不便
- ・公共交通機関（バスやタクシー）の運転手などの障害者への理解が不足しており、配慮が足りない。
- ・甲府駅南口など都市部での道路整備はだいぶ進んだが、周辺地域では歩道の未整備など進んでない。
- ・駅員が重症心身障害児用のバギーをベビーカーと間違え、冷たい扱いを受け悲しい思いをした。バギーとベビーカーは違うことを理解して欲しい。今はバギーと分かるよう手製の札を付けている。
- ・電動車いすの規格は、通常の子椅子より大きいので出入口やエレベーター扉などが狭い場合がある。
- ・身体障害者用トイレから多目的トイレの設置とユニバーサルな考え方が広がりよい面もあるが、一ヶ所しかないとおむつ替えなどで時間がかかる場合、身障者が待たなければ使用できない場面がある。
- ・県内のある市の公共施設のトイレは、窓がなく換気もできないなど、設置場所や設備環境が悪い。用を足すのに時間がかかりがちな障害者にとって、猛暑時などの使用の際は辛い思いをしている。改善を申し出たい。
- ・エスカレーター利用時に、右側を階段のように昇降する利用方法は危険であり、正しい利用方法の普及を願っている。内部疾患で立位時の

身体保持に困難がある者にとって、真ん中に立ち左右を支えた状態で立たないと転落する不安がある。後ろから昇降する人が来てもよけられず、見た目からは障害があるとは思われないので注意されることが多い。

- ・咽頭摘出者だが、買い物をする際に店員が私の声に驚き、その表情に不快な思いをすることがある。障害者への理解を深める社員研修を徹底して欲しい。

##### ◆視覚障害者

- ・盲導犬を連れていると、背後から来る車がゆっくりと通り過ぎてくれることが多くなった。そういう心づかいが嬉しい。
- ・県立施設に入る民間事業者の食堂で盲導犬と一緒に入店を拒否された。
- ・障害者が積極的に街に出て、めずらしい存在でなくなるべきだと考えている。そのためにもバスの定期券の申込等の簡易な書類の代筆を認める等、柔軟な対応が普及してほしい。
- ・甲府駅南口の点字ブロックはエレベーターに誘導するが、エスカレーターには誘導していない。エスカレーターは視覚障害者にとって危険だという認識が多いが、何階にいるかが分かるので安心できる場合がある。
- ・盲導犬は、左端の障害物に沿って歩くよう訓練されており、歩道と車道の段差が少なすぎると、車道に気付かず出てしまうことがある。
- ・電車のボタン式開閉ドアは、降車時は慣れてきたが、乗車時は自動で開いて欲しい。ドアの音がしないと手や杖で車体を直接確認するため危険
- ・横断歩道で車が停止してくれても、エンジン音がしていると止まったかが分からない。「どうぞ」と一声掛けてくれると安心して渡れる。
- ・全盲だが点字が読めないため、事前に会議資料をデータで送るように依頼したが、PDFファイルだと読めない場合もある。対応可能、使用している情報機器の機能と対応するデータへの配慮、理解してほしい。

### ◆聴覚障害者

- ・最近、一般の方が電車の遅延を筆談で教えてくれたことがあり、とても嬉しかった。
- ・市の窓口で筆談での対応もやむを得ないと思うが、ストレスを感じる。手話通訳者を設置してほしい。
- ・聴覚障害者は、エレベータに閉じ込められると内線電話で話せないし、混乱してエレベーター内に掲示されている連絡先のメールアドレスが細かいので押せるか不安。〇〇市役所のようなガラス張りエレベータがもっと普及してほしい。
- ・手話通訳者の配置を求めたが、主催者は予算面から困難とされ、役所からは派遣要綱に適用しないと断られた。
- ・夜間、交通事故にあった際、若い警察官が筆談に十分対応できず苦慮した。夜間でも手話通訳者の派遣を依頼できると助かる。
- ・広報紙の連絡先に電話番号だけ記載されているが、電話をかけられない障害者には問い合わせできない。Fax番号を併記することも合理的な配慮の提供だと思う。
- ・過去にろう者であることを理由に隣組の組長の順を飛ばされた。今は手話通訳者の派遣を受け、積極的に会議で出来ることを伝えている。
- ・難聴者が、パスポートを取得する際、職員の質問に同行者を通して回答したが、自身で回答するようきつく言われて辛かった。筆談等、障害に合った対応を学んでほしい。
- ・ろう者が銀行で自分の口座を作るとき、行員が手話を知らず筆談も不十分で苦労した。障害に合った最低限の対応を知ってほしい。
- ・防災無線の内容は、聴覚障害者に分からないので、FAXでも知らせてほしい。
- ・ATMの音声案内が聞こえない。周囲の人達に積極的に声をかけてもらえると有難い。
- ・防災無線の個別受信機は放送を受信すると光と文字で知らせてくれるが、振動機能がないので気付かないことがある。

### ◆知的障害

- ・県が作成した「心のバリアフリーガイドブック」の障害の特性理解の内容を事業者に読んでほしい。
- ・子供を産むとき看護師や保健師から生まない方が良いと言われた。障害があっても子供をほしい気持ちは変わらない。子供は施設に預けることになったが、主人と協力して子供の成長を楽しんでいる。
- ・アパートを借りる際、非正規雇用なので収入

が不安定だと断られた。支援者の協力で別のアパートを借りた。

### ◆精神障害者

- ・偏見や差別はまだ無くなっておらず、相互理解が進んでいるとは到底言えない。
- ・障害者が自立するためには、障害者の就労についてもっと積極的、具体的な取組が必要
- ・通り魔事件や処方薬を服用しないことによる交通事故、夜間の不審者情報などと同じ目で見られるのが辛い。
- ・てんかん患者による交通事故が相次ぎ、免許の更新が厳格化されている。精神障害者が入院時の返納に対し不安を示す事例が生じている。精神障害者の中には、実際には運転していないが、免許証を取得したという自信が治療の励みになっていたり、身分証明の際に使用することで自尊心を強く持つことにつながったりする場合がある。
- ・世間との交流に躊躇するが、相談窓口が増えてくれれば少しずつ変えられる。
- ・医師や支援者のアドバイスが結論ありきで、自分の考えと合わないことがある。自分の意見をよく聞いてほしい。
- ・防災訓練に参加したいが、知らせが来ないので避難場所が分からない。防災放送も聞き取りにくい地域に住んでいる。

### ◆発達障害

- ・子供が支援学校に通うため、地域の学校で把握されず、子ども会の名簿に載らなかった。地域とトラブルになりたくないの、行政から情報提供してほしい。
- ・小学校の夏休みのプールで、保護者同伴を求められた。ケースワーカー等と相談し学校に申し入れた。

### ◆全般

- ・法令や取組をより実効性のある制度として欲しい。
- ・地域で障害者と事業者が話し合う場、交流できるサロンの様な場所を確保してほしい。
- ・どんど焼きや防災訓練などの地域の行事に、障害当事者が積極的に参加すべきと考える。
- ・高齢者も障害者も、話し相手を必要としており、世の中にとって必要な存在でありたいと考えている。
- ・相談する者にとって、相談員が変わる度に最初から話をしなければならぬのは負担感がある。

## 意見、要望とともに、差別事例、拒否事例から学ぶこと

4月以降寄せられている障害者差別に関する事例の報告と相談についてまとめてみると、いくつかの事例で共通して窺うことができます。

富士吉田市内のレストランでの盲導犬利用者への入店拒否、甲府市内の大手スーパーマーケットでの電動車いす利用者への入店制限等が報告されています。いずれも、当事者に対し店長が直接訪問し、店舗としての理解のなさや従業員への指導の不徹底を謝罪し、一応の解決に至っています。

昨年暮れのある夕方、甲府駅前にあるチェーンの居酒屋で、盲導犬使用者が連れの方と一緒に入店する場面を見かけました。若い店員さんが、にこやかに「いらっしゃいませ」と声をかけていました。

対応の違いは、どこから出てくるのか。次号で、いくつかの事例を取り上げて分析し、話題提供したいと考えます。